

医師は語る



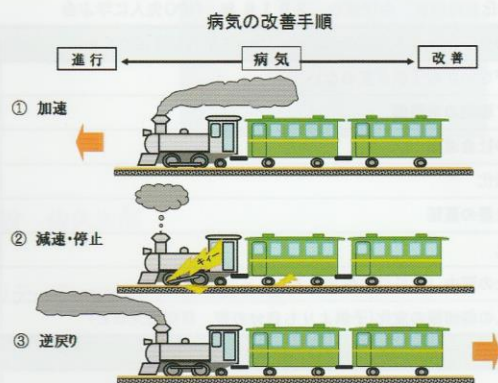
医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

病気には勢いがある

ひとたび発症した病気には、「勢い」というものがあります。その勢い乗って病気は、どんどん悪化します。まず、この勢いを止めなければ、病気を治すことはできません。しかし、そもそも発病に至るまでには、何年、何十年という長い歳月がかかっています。ごく最近病気が起こったように思えても、実際は長い準備期間があったのです。ですから、そう簡単に病気の勢いを止めることはできません。すべての患者さんにとって、ここが最大の難関です。ここを乗り越えることができれば、八割がた病気を克服したことになります。

病(やまい)は気から

それでは、どうやったら病気の勢いを止められるでしょうか。百年前も今も、いいえ一千年前も今も、病気を治す基本形は同じです。「病(やまい)は気から」です。すなわち、病は



心の持ち方しだいでも良くなり、悪くもなるということです。このときの心とは、単に明るい気持ちで過ごすという意味だけでなく、病気を打ち負かす闘志、あるいは必ずや病気を治すという信念です。病気が重ければ重いほど、そのような心が必要です。私はそれを「何くそ！精神」と呼んでいます。

自己防御力を盤石にする

心と体は一つです。病気を治したいという強い心は、体の中に病気を治すための力強さを育てます。このような力を「自己防御力」と言います。実はもともと病気に至った理由

こそが、この自己防御力の低下にあったのです。自分で病気を防ぐ力強さが、長年に亘って繰り返されるストレスや過労によって、慢性的に低下していたのです。「何くそ！精神」は低下した自己防御力を一気に引き上げる起爆剤なのです。すなわち、盤石な自己防御力こそが、病気の勢いを止める唯一の方法なのです。

還元電子治療は必須である

私は二十年以上に亘り還元電子治療を研究し、現場で実践してきました。この目的はひとえに自己防御力の回復と維持です。身体に「電子」を補充することは、生命活動の基本です。通常は空気中のネガティブイオン(マイナスイオン)と食べ物(水を含む)の抗酸化物質、それらが持つ「電子」によって自己防御力を高めています。しかし、病気の発症に至ったときの自己防御力の悪化は、とても尋常ではありません。全く、ひどいあり様です。少しくらいきれいな空気を吸ったとか、あるいは少し

余分に抗酸化物質を摂ったとか、そんな程度では到底自己防御力の回復は望めません。徹底的に電子を補充する対策が必要です。そこで「電子」を身体に補充する機械的方法を考案したのです。それが還元電子治療です。

病気にならない努力こそ大事

病気とのつながりを断ち切る最も良い方法は、病気になってから慌てて努力するよりも、病気にならないように日々努力することです。何故なら病気になってから努力しても、余りにも自己防御力の低下が激しい場合、それを回復できないからです。自己防御力弱いままなら、残念ですが病気は治癒しません。いま重い病気にかかっていないなら、毎日ほんの少しの還元電子治療だけで、容易に自己防御力を回復し維持できます。そのことは生涯健康で過ごすことを意味するのです。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組み傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。